

JR連合結成25年 政策課題と組織課題のさらなる前進を図り、これからも安全で信頼されるJRを築こう!



http://www.jr-rengo.jp

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10
facebook
twitter

第30回中央委員会 2018春季生活闘争方針決定
月例賃金総額6000円以上・純ペア3000円
グループの労働条件引き上げ要求



賃金引上げはもとより、グループ・協力会社を含むすべてのJR関係労働者の労働条件引き上げをめざすことを意志統一

JR連合は、2月5日、和歌山市内において、第30回中央委員会を開催し、「底上げ・底支え」「格差是正」を求め、働き方改革を視野に入れた総合生活改善に取り組み2018春季生活闘争の具体的方針を決定した。

執行部を代表して挨拶に立った松岡裕次会長は、JR各単組、グループ労組が一丸となつて運動を展開することを確認し合つた。

会長挨拶(要旨)
JR産業の持続的な発展にむけ
8万2千人が一丸となる

会長 松岡裕次

安全確立に向けた取り組み

■安全確立に向けた取り組み
昨年の第26回定期大会以降、4件の労災死亡事故が発生し、協力会社の方が3人、そして貨物鉄道労の組合員が1人お亡くなりになったことは痛恨の極みである。

労災以外でも、大規模輸送障害、新幹線でも初となる重大インシデントが起こり、安全と信頼を大きく揺るがした。現場では、間違いなく安全最優先で業務遂行していた。しかし、こうした事象を重く受けとめ、危機意識を強く持ち、安全



松岡裕次 会長

■2018春季生活闘争
JR連合は「中期労働政策ビジョン」に基づき、今春季生活闘争においてもベースアップを軸とする「月例賃金の引き上げ」にこだわった取り組みを展開していく。具体的には、連合あるいは交通労働協の方針を踏まえつつ、「純ペア3,000円」を含む「月例賃金6,000円以上」の引き上げを掲げ、総合生活改善闘争の取り組みを展開する。強固で持続的な日本経済の構築にむけて欠かすことのできない個人消費の拡大のためには「月

民主化闘争

■民主化闘争
JR発足30年・JR連合結成25年を経て、JR労働界は依然として三極構造に分かれ、とりわけ「箱根以東」を主としてイデオロギーに汚染された非民主的な労働運動が展開されている。誤った労働運動を次なる30年を築く後輩に

めていく決意を示し、直面する諸課題への真摯な議論を要請した。
さらに、地元和歌山選出でJR連合国会議員懇談会幹事である岸本周平衆議院議員が来賓として挨拶に立ち、「税制の専門家として税制改正をはじめとするJR連合の抱える政策課題解決に尽力していく」とし、この間の政局について説明するとともに、野党再編にむけた思いを力強く語った。



岸本周平衆議院議員

「官製春闘」と言われようとも、主体的かつ建設的な労使自治に基づく、真摯な労使協議を通じて取り組む。そして、JRグループ全体で生み出した付加価値の適正配分をより強く意識し、グループ労組組合員、さらには協力会社等で働く仲間の労働条件の改善も意識した運動をあらためて要請したい。JR各単組・グループ労組93単組8万2千人が一丸となつて、職場からの「統一闘争」を展開する。

た、人手不足が社会問題化する中で、JR産業の持続的な発展にむけては諸労働条件を高め、人材を確保していかなければならない。
「官製春闘」と言われようとも、主体的かつ建設的な労使自治に基づく、真摯な労使協議を通じて取り組む。そして、JRグループ全体で生み出した付加価値の適正配分をより強く意識し、グループ労組組合員、さらには協力会社等で働く仲間の労働条件の改善も意識した運動をあらためて要請したい。JR各単組・グループ労組93単組8万2千人が一丸となつて、職場からの「統一闘争」を展開する。

重要政策課題の取り組み

■重要政策課題の取り組み
JR連合は「鉄道特性活性化プロジェクト」の最終答申をベースに、加盟単組はもとより、国会議員懇、議員フォーラム、地方議員団連絡会とも連携を一層強化し、「チーム公共交通」「チーム地域共創」の形成に全力を傾注していく。

■新中期労働政策ビジョン策定にむけた取り組み
政府は、「働き方改革国会」として、時間外労働の罰則付き上限規制等とあわせて、いわゆる高プロ制度や裁量労働制適用拡大など、長時間労働是正に逆行する内容が含まれている。この矛盾を一本化した法案を提出しようとしており、連合・交通労働協の一員として、対処していく。

強・肉付けをされ、執行部各担当より答弁の後、河村事務局長がこれらの意見を集約し、総括答弁を行った。幸議長が提案されたすべての方針の採択を求め、満場一致で方針を決定した。
なお、最重要課題である2018春季生活闘争については、連合・交通労働協の方針を踏まえ、JR連合の春季生活闘争方針を確立した。「月例賃金6,000円以上」の引き上げ「うち純ペア3,000円」、さらに、ワイクライフバランス実現に資する要求項目を盛り込み、賃金をはじめとする諸労働条件の改善を図る総合生活改善闘争として取り組みを展開することとした。
さらには、協力会社等も含めて、JRグループに関係するすべてのJR関係労働者からの発言で方針案が補



JR B M 労組の寺山雅和執行委員長、鈴木洋範書記長に加盟証書とJR連合バッジが手交された

第4次産業革命が進む中、JR課題についても、提言に反映していきたい。

また、整備新幹線はそれぞれ課題もあるが、北陸新幹線の敦賀以西ルートの問題や、四国エリアの新幹線構想などの課題もある。日本における基幹インフラとして、国土の均衡発展をめざす上でも、道路行政偏重の予算配分を見直すなど、「交通重点政策」に盛り込み、内外に強く発信する取り組みを展開していく。

者「底上げ・底支え」「格差是正」を図り、優秀な人材確保と定着化に向け、賃金を含めた労働条件の向上をめざし、JR各単組、グループ労組93単組が一層連携を強化し、一致団結した闘いを展開する。
その後、新倉実特別執行委員(青年女性委員会委員長)が委員会宣言を高らかに読み上げて提起し、満場の拍手で承認され、最後に松岡会長の団結ガンパローで閉会した。

質疑・論

春季生活闘争・民主化闘争・政策課題に建設的な発言で活動方針を補強

すべての行動を組織拡大へと繋げていく

園木中央委員(JR北労組)



・JR総連傘下の北鉄労は、国鉄改革のスキームが崩壊したとして、経営難を国に押しつけるような北鉄労の保身のための主張を自治体に展開している。

・窮地に追い込まれている。今こそ、会社再生にむけ、協力していく。現場の中心を担い、底力を見せ、牽引役となり、ひたむきな努力を続ける姿勢を見せ、組織拡大に繋げていく。

税制支援は期限措置でなく恒久化を

嶋田中央委員(JR四国労組)



・軽油引取税免税措置は四国にとっては非常に大きな支援措置である。期限措置ではなく、恒久化を図るよう要請する。

・先の衆院選において、高知選出の広田一議員が復活され、JR連合国会議員懇話会として活動される。

・この間、お客様の尊い命を脅かすような重大事故は発生していないが、今後も安全最優先の労使協議に全力で取り組んでいく。

・昨年の台風18号による被害は復旧で運行しているが、完全復旧には約5年を要し、さらに復旧費は過去最大の30・5億円を要する。

・鉄道軌道整備法に基づき復旧支援に加え、再発防止に資する機能強化への支援をしていきたい。

・JR東日本の経営体力は盤石を思わせる。私たち働くものの懸命な努力と商品としての安全安定輸送がお客様に選ばれた結果である。そして、グループ会社で働く多くの仲間間の懸命な努力があつてこそ、JR連合の方針にたえられ

る経営体力は十分ある。技術は現場に蓄積された信頼を礎とし、さらに日々の作業の中で積み上げていくという風土を守り、さらに発展させる。

・36協定の締結遅れにより、先月勤務発表時、「留保」の扱いで勤務が提示された。多くの社員と職場管理者には不安と不満が残り、多くの労力を強いられた。

・昨年末30代の青年組合員がJR Eユニオンに加入した。彼は現場でいきいきと仕事をし、職場の中ではJR Eユニオンの若い組合員は他にいないが、加入後も同僚からの信頼を得ている。我々はこの一筋の光を大きく見守りたい。

・九州地本にて2名の組織拡大ができた。

・日貨労は、「いつでもどこでも」からでも聞える組織体制確立として、スト権について議論している。JR発足の経緯や時代に合った組織体制作りを考えるべき。

・男女平等等参画委員会にあわせて、労働科学研究所の松田文子特別研究員を講師に招き講演いただいた。夜勤をはじめ、特殊な労働環境について、女性組合員から多くの不安の声がある。定期大会での発言を受けて、今回の講演を実現していただき感謝している。

被災路線の復旧にむけた法改正に取り組みを要請

木村中央委員(JR九州労組)



・JR九州内において昨年末に2件の死亡労災事故が発生した。真相は不明であるが、作業手順やルールの見直し等のソフト対策、異常時の自動停止等のハード対策等、具体的な取り組みが必要である。会社に対しては、十分な安全対策、適切な単価及び工期等について、契約に反映するよう引き続き提言

・今年タイ改正でのJR発足以降最大の運行本数減速管理システムによる無人駅の拡大等について、単にお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

「JR北海道の再生をめざす安全集会」を、事前に実施した安全検証アンケートをもとに行った。安全性の検証及び他労組との繋がりを切らさない取り組みを進めていく。

・社員の多くが半ば諦めており、将来が見えない混沌とした環境で日々業務を行っている。正しい情報が入りやすい環境改善をし、労働力提供の対価を諦めさせない取り組みを行う。

要求金額は四国にとつては壁のように高いハードルではあるが、意思統一を図っていききたい。

・JR東日本の経営体力は盤石を思わせる。私たち働くものの懸命な努力と商品としての安全安定輸送がお客様に選ばれた結果である。そして、グループ会社で働く多くの仲間間の懸命な努力があつてこそ、JR連合の方針にたえられ

る経営体力は十分ある。技術は現場に蓄積された信頼を礎とし、さらに日々の作業の中で積み上げていくという風土を守り、さらに発展させる。

・36協定の締結遅れにより、先月勤務発表時、「留保」の扱いで勤務が提示された。多くの社員と職場管理者には不安と不満が残り、多くの労力を強いられた。

・昨年末30代の青年組合員がJR Eユニオンに加入した。彼は現場でいきいきと仕事をし、職場の中ではJR Eユニオンの若い組合員は他にいないが、加入後も同僚からの信頼を得ている。我々はこの一筋の光を大きく見守りたい。

・九州地本にて2名の組織拡大ができた。

・日貨労は、「いつでもどこでも」からでも聞える組織体制確立として、スト権について議論している。JR発足の経緯や時代に合った組織体制作りを考えるべき。

組織拡大の一筋の光を大きく見守りたい

国井中央委員(JR Eユニオン)



・JR東日本の経営体力は盤石を思わせる。私たち働くものの懸命な努力と商品としての安全安定輸送がお客様に選ばれた結果である。そして、グループ会社で働く多くの仲間間の懸命な努力があつてこそ、JR連合の方針にたえられ

る経営体力は十分ある。技術は現場に蓄積された信頼を礎とし、さらに日々の作業の中で積み上げていくという風土を守り、さらに発展させる。

・36協定の締結遅れにより、先月勤務発表時、「留保」の扱いで勤務が提示された。多くの社員と職場管理者には不安と不満が残り、多くの労力を強いられた。

・昨年末30代の青年組合員がJR Eユニオンに加入した。彼は現場でいきいきと仕事をし、職場の中ではJR Eユニオンの若い組合員は他にいないが、加入後も同僚からの信頼を得ている。我々はこの一筋の光を大きく見守りたい。

・九州地本にて2名の組織拡大ができた。

・日貨労は、「いつでもどこでも」からでも聞える組織体制確立として、スト権について議論している。JR発足の経緯や時代に合った組織体制作りを考えるべき。

・JR九州労組からの大量脱退問題から17年が経過し、その闘いを知らない若手組合員が増加している。支援単組としての活動を通じて、JR北労組の仲間を見習って今後の組合活動を進めていかなければならぬことを痛感した。

・JR九州労組中期労働政策ビジョン「チャレンジ2018」の4年目の年として、上場会社に相応しい労働条件の確立及び向上、さらには、グループ労組への波及効果を創出すべく、強い決意で臨んでいく。

・各ロジ会社では、慢性的な要員不足が続き、採用しても労働条件の悪化で辞めてしまう。いつパンクしてもおかしくない。トラックもあがるが、今回は必ずベアを獲得し、将来に希望の持てる労働条件確立をめざしていく。

・女性役員意見交換会は、総勢28人が参加した。駅営業、輸送、乗務員、電気、保線、える環境ができた。

・本社、専従者と多岐に渡っており、お互いが情報を取り合える環境ができた。

・女性役員意見交換会は、総勢28人が参加した。駅営業、輸送、乗務員、電気、保線、える環境ができた。

死亡労災が発生し安全対策強化を強く求める

辻村中央委員(貨物鉄産労)



・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

必ず成果を出せるよう春闘交渉に臨む

山田特別中央委員(南関東ロジ労組・JR貨物連合)



・春季生活闘争では南関東ロジの責任組合として、「人への投資IIベア」を強く訴えて、必ず成果を出せるよう、春季生活闘争交渉に取り組みたい。

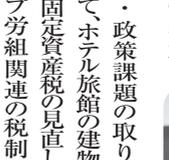
・政策課題の取り組みとして、ホテル旅館の建物に関わる固定資産税の見直し等グループ労組関連の税制改正要望も盛り込むことを要請する。

・JR総連・日貨労のスト

・JR総連・日貨労のスト

「同世代の仲間が欲しい」の声を受け止め民主化に取り組み

西川中央委員(JR西労組・青女委員会)



・青年女性委員会では、民主化闘争完遂にむけ、「仲間」を広げ、互いの連帯を強めていく。

・「同世代の仲間が欲しい」とはせずに、民主的な解決方法を考えてもらいたい。

・SNSは一人ひとりの組合員に情報発信していくツール。より充実してほしい。

・四国で青年女性委員会最大のイベント「ユースラリー」を開催する。JR北労組・JR Eユニオン・貨物鉄産労の若い組合員に二人でも多く参加していただきたい。



会場埋めつくし議事に集中する傍聴者

・JR九州内において昨年末に2件の死亡労災事故が発生した。真相は不明であるが、作業手順やルールの見直し等のソフト対策、異常時の自動停止等のハード対策等、具体的な取り組みが必要である。会社に対しては、十分な安全対策、適切な単価及び工期等について、契約に反映するよう引き続き提言

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。

・昨年12月、鹿児島線千早操車場構内において死亡労災が発生し、私たちの仲間のお客さまに不便を強いるだけの施策であれば反対である。各地方から多くのご意見があり、交渉において真意とともに、必要な修正について実施を求めている。



円滑な議事進行をリードした幸議長(JR四国労組)

委員会宣言

本日、私たちはホテルグランヴィア和歌山において第30回中央委員会を開催し、安全・安定輸送の重要性、労働組合としての社会的責任、JR産業界が果たすべき社会的役割を真摯に討議し、当面する活動方針を満場一致で決定した。そして、以下の重要課題に対し、JR連合100単組・組合員8万2千名が丸となって全力で取り組む決意を固めた。

第一に、福知山線列車事故、羽越本線列車事故をはじめとする重大事故の反省と教訓を胸に刻み、風化させることなく、何よりも安全を最優先する取り組みを継続する。第26回定期大会後に発生した4件の労災死亡事故、大規模輸送障害、新幹線で初の重大インシデントなどを重く受けとめ、さらに危機意識を高め、安全シナリオや安全ディスカッションの開催等を通じ、JRグループ全体の安全確立にむけた取り組みを深化させていく。

第二に、2018春季生活闘争では、日本経済の自律的な成長が所得向上による個人消費拡大によりもたらされるとの認識を労使で共有化し、その社会的要請を受け止め、真摯な労使協議を通じ実現していくことが強く求められている。私たちは「中期労働政策ビジョン(2014~2018)」で掲げるJR関係労働者の労働条件等のあるべき姿を念頭に置き、ベースアップを軸とする「月例賃金の引き上げ」にこだわらぬ総合生活改善闘争を展開する。そして「底上げ・底支え」「格差是正」にむけ、JRグループ全体で生み出した付加価値の適正配分を図り、職場でも働く協力会社等の仲間の労働条件改善をも視野に入れた活動を展開する。また、JR産業界の将来を見据えた働き方の総点検を行い、長時間労働の是正、ワーク・ライフ・バランスの実現、時代を先取る労働環境・制度の構築にむけた取り組みを推進する。

第三に、国鉄改革の負の遺産である「JRへの革マル派浸透問題」、非民主的労働運動との闘いである民主化闘争については、「あるべき労働組合像・労使関係像」を強く掲げ、すべてのJRにおける民主的な労働運動、建設的な労使関係の構築にむけて全力を傾注する。そして、課題の大きさ・根深さ、民主化の必要性を、あらためて内外へ広く発信し、民主化当該単組・支援単組・JR連合が三位一体となった総掛かりの取り組みを展開する。

第四に、JR産業界が将来に亘って日本経済・社会を支え、働く者にとっても希望の持てる産業であり続けられるよう、中長期的かつ働く者の視点に立脚し、産業政策の前進にむけて取り組む。地域公共交通や物流の持続的な維持・発展には「チーム公共交通」「チーム地域共創」の形成が不可欠であるとの認識に立ち、地域・社会と真摯に向き合い、連合や交連労協に集う仲間とも密に連携し、戦略的な政策活動を展開する。鉄道・バスのさらなる安全性向上や、多発する自然災害からの復旧支援、防災・減災対策、老朽化対策、インバウンド対応、および整備新幹線に関する課題等、喫緊の課題解決にむけた各方面への働きかけを強化していく。

JR発足30年、JR連合結成25年を経て、私たちはあらためて国鉄改革の意義と自らの使命を確認した。原点に立ち戻り、そしてさらなる将来を見据え、JR産業界、JR連合運動のさらなる飛躍、発展にむけて、JR連合全組合員が団結し力強く運動を展開していく。

2018年2月5日

日本鉄道労働組合連合会 第30回中央委員会



議事

### バス事業の安全の根幹は「人」 あらためて問いかけ

西原中央委員(JR西労組)



バス事業の安全の根幹は「人」。乗務員にはハード対策がなく、全て自分で判断し、自分の体で操作、対応しなくてはならない。労働条件の改善や乗務員の確保が喫緊の課題である。

「ジェイアール東海総合ビルメンテナンステラス労働組合」を迎えることができた。JR東海連合は3万人組織を目標として、さらなる拡大に取り組んでいる。他労組が、出向先でプロパー社員に接している動向が散見される。当該単組と情報交換を密にし、組織強化に取り組み。

善闘争として、ゆとり・豊かさを実感でき、働きがいと生きがい、意欲が持てる職場環境と労働条件の実現をめざし、春季生活闘争「ゆめいく」の取り組みを進める。また、グループの春季生活闘争を応援する取り組みも継続的に取り組んでいく。地域のリーディングヒッターとして今年春季生活闘争を牽引し、JR連合の組織力を見せつける。

### 働きがいと生きがいの 実現をめざしていく

森田中央委員(JR東海ユニオン)



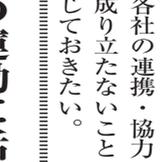
昨年未だ大きな事故が2件あった。1つは新幹線での重大インシデント。もう1つは東海道線でのパンタグラフ損傷事故である。労使で議論し再発防止にむけた取り組みを進めていくことが肝要である。鉄道の運行はJR各社の連携・協力を肝に銘じておきたい。

「重大インシデント」発生直後に緊急申し入れを行い、会社としっかり議論を行った。労働組合の視点でも問題提起するため、関係する組合員の声を聞き、徹底し、職場の意見や実態を「たたかう階級の労働運動」

ふまえた検証も行い、実効性を高める。5年連続のベア獲得へむけて全力を挙げて取り組む。また、要求には、長時間労働の是正や同一労働同一賃金の課題も組み込み議論を展開する。

### 安全確立にむけ 新計画の実効性を高める

榊野中央委員(JR西労組)



「安全最優先で世の中に信頼される」JRを築かなければならない。そのために、真摯な労使協議を通じて、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

立の取り組みを展開していく。2018春季生活闘争「中期労働政策ビジョン」に基づき、「総合生活改善闘争」に徹底してこだわり、諸労働条件の改善を図ることを再度確認したい。「底上げ・底支え」「格差是正」にむけて、JRグループ全体で生み出した付加価値の適正配分をめざし、グループ労働組合員の労働条件の改善に、これまでに以上に取り組みを強化することを要請する。

「安全確立」の加減は、JR連合100単組目となる。引き続き、10万人組織達成にむけて運動を展開していく。また、組合役員が発掘・育成・継承は、今後の重要な課題となる。今後の動向を注視しつつ、2018春季生活闘争勝利にむけて、JR各単組、グループ93単組、8万

中山組織・政治部長 民主化の取り組みは、三位一体となって協力しあうというところ。その成果として、北海道で北鉄労から組織拡大ができた。JR東海ユニオンの多大なるご支援にも感謝する。これから新採加入行動や春季生活闘争で勉強会・学習会を行うと思う。お互い是非声を掛けあつてその取り組みに参加しあつて、関係を作つて、民主化の取り組みを進めていきたいと思います。

北村労働政策部長(男女平等参画推進担当) 今年春季生活闘争、いかに採用競争に打ち勝つだけの競争力をつけていくのかというところ。人材不足が顕著になっている中で、労働の価値に見合った賃金に引き上げていくのかというのがポイントである。

白壁特別執行委員(男女平等参画推進委員会副委員長) 女性役員意見交換会では多様なエリア・職種・年齢の方に参加いただき、産別の委員会に女性がこれだけ多く参加していることは素晴らしい。引き続き女性役員を育成していただきたい。

### 答弁要旨

#### 安全の確立

「安全最優先で世の中に信頼される」JRを築かなければならない。そのために、真摯な労使協議を通じて、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

#### 2018春季生活闘争

「中期労働政策ビジョン」に基づき、「総合生活改善闘争」に徹底してこだわり、諸労働条件の改善を図ることを再度確認したい。「底上げ・底支え」「格差是正」にむけて、JRグループ全体で生み出した付加価値の適正配分をめざし、グループ労働組合員の労働条件の改善に、これまでに以上に取り組みを強化することを要請する。

#### 政治活動

JR連合の抱える政策課題や組織課題の解決には、政治との連携が求められる。引き続き「JR連合国会議員懇談会」「21世紀の鉄道を考える」の連携が求められる。引き続き「JR連合国会議員懇談会」「21世紀の鉄道を考える」の連携が求められる。引き続き「JR連合国会議員懇談会」「21世紀の鉄道を考える」の連携が求められる。

#### 労働条件の改善

労働条件の改善は、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

#### 労働条件の改善

労働条件の改善は、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確



「安全最優先で世の中に信頼される」JRを築かなければならない。そのために、真摯な労使協議を通じて、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

「安全最優先で世の中に信頼される」JRを築かなければならない。そのために、真摯な労使協議を通じて、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

「安全最優先で世の中に信頼される」JRを築かなければならない。そのために、真摯な労使協議を通じて、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

「安全最優先で世の中に信頼される」JRを築かなければならない。そのために、真摯な労使協議を通じて、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

「安全最優先で世の中に信頼される」JRを築かなければならない。そのために、真摯な労使協議を通じて、安全性向上にむけた取り組みを進めてきたが、昨年の定期大会以降、労働災害死亡事故が4件発生し、一歩間違えば死亡事故に繋がりがかねない労働災害も発生している。引き続き、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ、安全確

### 執行部答弁要旨

## 安全・組織・政策課題に 積極的な運動展開を



北村労働政策部長



中山組織・政治部長



白壁特別執行委員



中村交通政策部長

特集

民主化闘争 28

JR総連・JR東労組が ストライキ権(スト権)行使か?

産経新聞は、2月12日、朝刊の一面トップ記事で「JR東労組スト権検討」と見出しを掲げ、「今年の春闘で、ストライキ権行使の可能性を検討すると会社側

「JR東労組スト権検討」と見出しを掲げ、「今年の春闘で、ストライキ権行使の可能性を検討すると会社側」に通告していたことがわかった。実際に行使されればJRの最大労組で初めてストの可能性があるのは、3月中旬で、組合員を限定

して行くとみられる」と報じた。 JR東労組のスト権確立に関する動向として、2017春季生活闘争に向けた「全組合員によるスト権確立の意思確認の一票投票による82・3%の賛成」、また、「昨年2月の臨時大会での代議員投票(賛成多数)による「いつでもたたる

体制」の構築があった。しかし、この臨時大会以降、JR東労組はスト権確立について、表立って明言を避けるようになり、マスコミ取材に対しては、「春闘に関するスト権は確立していない」と回答をしていた。さらに、昨年6月の「JR東労組第33回定期大会」においては、「格差ベアに完全

行使の準備指令が既に発信され、「指名ストライキ」の対象職場と対象者を選出し報告するよう指示が出されていることがうかがえる。 同産経新聞記事の中では、今回のスト権を巡る動きについて、ノンフィクションライターの西岡研介氏のコメントが紹介され、「会社側は対応を見直しており、労使関係は転換期にある。

強硬な姿勢を貫くことで組織防衛を図ることが本目的ではないか」と指摘している。 スト権そのものを否定するものではないが、JR東労組のスト権の取り扱いは、関係する都合の良い解釈・手法は、組合員不在の組織運動に過ぎず、世の中の理解も得られるとは言い難い。

グループ 東京ステーション開発労働組合 (JR東海連合) 労組紹介

東京ステーション開発労働組合は、2015年に結成され、活動を展開しています。少ない人数のため、大変なことも多々ありますが、各々の役割を明確にし、全員発言全員活動の意識のもとに活動しています。



東京ステーション開発労組の仲間たち

産経新聞 2月12日付「産経新聞」東京朝刊1面トップ記事 「格差是正」をはじめ取引の適正化、長時間労働課題に對し、闘争開始宣言で確認した。 津原代表幹事は「安全対策を国から指導するよう要望した。小西幹事からは、20代の社員が少なく、20代の社員が少くないことに触れ、バス産業の魅力創出にむけた取り組み、バス産業の構造的な課題に対する行政への意見提言に取組むとともに、バス運転者の労働条件の改善にも積極的に取り組んでいく。」

2月12日付「産経新聞」東京朝刊1面トップ記事 「格差是正」をはじめ取引の適正化、長時間労働課題に對し、闘争開始宣言で確認した。 津原代表幹事は「安全対策を国から指導するよう要望した。小西幹事からは、20代の社員が少なく、20代の社員が少くないことに触れ、バス産業の魅力創出にむけた取り組み、バス産業の構造的な課題に対する行政への意見提言に取組むとともに、バス運転者の労働条件の改善にも積極的に取り組んでいく。」

2月5日、連合は都内で2018春季生活闘争にむけた中央総決起集会を開いた。「底上げ・底支え」をはじめ取引の適正化、長時間労働課題に對し、闘争開始宣言で確認した。 津原代表幹事は「安全対策を国から指導するよう要望した。小西幹事からは、20代の社員が少なく、20代の社員が少くないことに触れ、バス産業の魅力創出にむけた取り組み、バス産業の構造的な課題に対する行政への意見提言に取組むとともに、バス運転者の労働条件の改善にも積極的に取り組んでいく。」

2月5日、連合は都内で2018春季生活闘争にむけた中央総決起集会を開いた。「底上げ・底支え」をはじめ取引の適正化、長時間労働課題に對し、闘争開始宣言で確認した。 津原代表幹事は「安全対策を国から指導するよう要望した。小西幹事からは、20代の社員が少なく、20代の社員が少くないことに触れ、バス産業の魅力創出にむけた取り組み、バス産業の構造的な課題に対する行政への意見提言に取組むとともに、バス運転者の労働条件の改善にも積極的に取り組んでいく。」

交運共済(株) オプション保障 火災共済の保障力を、さらにアップさせる新制度。 近隣の家へ損害を与えたときの「類焼損害保障」、日常生活での賠償事故に備える「個人賠償保障」、賃貸住宅で火災を起こした場合の「借家人賠償保障+修理費用」。火災共済とセット加入することで大型保障を実現します。

自動車連絡会第1回幹事会 国交省自動車局との意見交換 現場実態について意見を交わす



安全対策をはじめ、バス産業の魅力創出にむけた意見等、多岐にわたる意見交換となった

1月29日、JR連合自動車連絡会は第1回幹事会を開催し、JRバス各社あるいはバス業界の動向について情報共有を図った。また、2018春季生活闘争方針

や交通労働協バス部会における政策制度要求などについて協議した。 幹事会終了後、国交省自動車局との意見交換会を実施した。各幹事は働く者の視点で構造的な問題も含めて同局担当者率直な意見交換を行った。冒頭挨拶に立った西原一英代表幹事(JR西労組西バス地本)は、実効性ある監査の必要性、規制緩和による貸切バス事業者の問題、さらには魅力あるバス産業とするために改善基準告示をはじめとする労働環境の改善について訴えた。

国交省自動車局からは、予算要求手続における問題点について述べるとともに、今後のバス事業者の安全管理等に関する取り組みについても触れられた。また、今国会で創設されようとして

家族の幸せを災害から守る 火災共済 + オプション保障 火災共済の保障力を、さらにアップさせる新制度。 近隣の家へ損害を与えたときの「類焼損害保障」、日常生活での賠償事故に備える「個人賠償保障」、賃貸住宅で火災を起こした場合の「借家人賠償保障+修理費用」。火災共済とセット加入することで大型保障を実現します。



みんなで暮らしをガード 交運共済(JR職域生協) 全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合



お詫びと訂正 本紙第561号および第563号の発行日付について、「平成30年2018」とすべきところが、「平成29年2018」となっており訂正。訂正し、お詫びいたします。